城陵

— 第3号 —

発行／岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地／岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL 0573-26-1311
FAX 0573-26-1313
発行責任者　柘植　章

“同窓ビッグ3”トークショーなど
創立80周年の記念事業決まる

『創立八十周年』の記念事業委員会＝丸山朝夫委員長［高15］＝では、このほど次のような記念事業を決定しました。

①記念トークショー（座談会）
②各卒業期ごとに校旗の整備
③校歌の山に登り、中山道を歩く
④記念ゴルフ大会

［注＝②～④の説明は2、3ページで紹介します］

豪華な末松安晴・鈴木正昭・草野満代さんらの3講師

①創立八十周年記念トークショー…創立八十周年記念式典を十一月十日（日）午前九時三十分から、恵那文化センター大ホールで開催します。当日のメーンイベントは『”同窓ビッグ3”トークショー』（座談会）で、十時五十分から九十分間、同窓会を代表する三人の方に講師を依頼し「二十一世紀・過去を温（あたた）め未来を拓（ひら）く」というテーマで行ないます。

講師には、末松安晴さん（国立情報学研究所長、元東京工業大学学長）、鈴木正昭さん（岐阜大学大学院医学研究科教授）それに講師・司会を兼ねて草野満代さん（ニュースキャスター）をお願いしました。

内容としては「三大講師の偉大な足跡を紹介してもらい、その中から新しい未来を拓くための知識や見解を得ようというもの」で、A高校生活の思い出、高校時代に抱いた将来への夢

B大学卒業後に歩んだ道（末松さん、鈴木さんには科学者としての研究内容とその成果、将来への活用、草野さんにはキャスターとしての活躍ぶりなど）

C未来に向けて日本・日本人の目指すもの、その心構えなどを語っていただきます。

豪華な三大講師による千載一遇のトークショーに、どうかご期待ください。

斉藤宣昭校長が着任

三月三十一日付けの人事異動で、石井新太郎校長が退職され、四月一日付けで斉藤宣昭さんが新校長に発令されました。創立八十周年の記念すべき年に着任された斉藤新校長に、ご活躍を期待します。

また、三月一日には恵那高第54回生の卒業式が行われ、普通科百九十四人、理数科八十人、計二百七十四人が巣立ちました。

これで旧制中学校以来の卒業生総計は二万三千六十三人となります。

トークショー講師の横顔

末松（すえまつ）安晴（やすはる）さん［中24］

日本の光ファイバー通信技術を世界一に引き上げるのに貢献した世界的科学者。坂下町生まれ、東京工業大学理工学部卒業、同大学院理工学研究科修了、工学博士。

一九七三（昭四八）年、同大学工学部電子物理工学科の教授に就任、八九（平元）年、同大学の学長に就任、〇一（平一三）年から国立情報学研究所長。

鈴木（すずき）正昭（まさあき）さん［高18］

日本で初めて化学、生物学、医学などを一体化させた研究方法の提案者。

ノーベル賞受賞者の野依良治教授と「脳内の分子化学」を共同研究中。

中津川市千旦林生まれ、名古屋大学理学部卒業、同理学研究科博士課程満了、理学博士。一九九三（平五）岐阜大学工学部教授、〇一（平一三）国の学術創成研究リーダー、〇二から岐阜大学大学院医学研究科教授。

草野（くさの）満代（みつよ）さん［高37］

TBS『ニュース23』のキャスター。NHK時代、女性アナとして初のスポーツ放送に取り組む。抜てきされて重要番組を歴任。（詳細は本紙8ページで紹介）

福岡町出身、津田塾大学学芸学部数学科卒業。

一九八九（平元）年NHK入局、金沢放送局勤務、九一（平三）東京へ転勤、九七（平九）NHK退職し独立、TBS『ニュース23』のキャスターとなる。

創立80周年の記念事業（つづき）

校歌の山・恵那山と笠置山に登り中山道を歩こう

「創立八十周年を記念して"校歌"の中で歌われている山に登ろう。それに、姫街道四〇〇年祭を記念して中山道を歩こうではないか」という意見がまとまり、記念事業委員会では、次のとおり計画しました。

同窓会員はもちろんのこと、家族の皆さんも一緒に奮ってご参加ください。

①笠置山・ナンジャモンジャ登山

【実施日】六月九日（日）
【集合】JR恵那駅前集合午前8時（東鉄臨時バスで笠置公民館まで移動）又は笠置公民館集合午前8時40分
【解散】笠置公民館午後2時30分ごろ（東鉄臨時バスでJR恵那駅前まで移動、午後3時ごろ）
【参加費】保険代五百円、バス往復利用料金千円
【持ち物】弁当、水筒、帽子、タオルなど
【申込み】「校歌の山へ登る会」事務局＝赤尾友和［高43］電話＝〇五七三―六五―三五三四、笠置公民館　電話＝〇五七三―二七―三一一〇、恵那峡ガーデン　電話＝〇五七三―二六―二〇八八
【申込み期限】六月六日

②『青い山脈』恵那山を登る

【コース】阿智村広河原から恵那山頂へ登る
【実施日】九月二八日（土）
【集合】JR恵那駅前集合午前7時20分（マイクロバスで7時30分出発、広河原まで移動）
【解散】広河原からマイクロバスで恵那峡温泉経由、JR恵那駅前へ午後6時30分ごろ着解散
【参加費】一人三千五百円（バス往復料金、温泉入浴代保険代など）
【持ち物】弁当、水筒、帽子、タオルなど
【申込み】「校歌の山へ登る会」事務局　電話＝〇五七三―六五―三五三四、恵那峡ガーデン　電話＝〇五七三―二六―二〇八八
【申込み期限】九月二五日

③姫街道四〇〇年祭・中山道を歩く

【実施日】十一月二日（土）
【集合】JR武並駅前集合午前9時
【コース】武並駅→深萱高札場→紅坂一里塚→乱れ坂→槙ヶ根追分→西行塚→中山道広重美術館（自由）→ひしや資料館（同）→大井宿本陣→甚平坂→茄子川篠原家御小休旧跡→馬頭観音堂→坂本駅（全行程約一八キロ）
【案内】中山道語りべの会会長・西尾重人［中22］副会長・大導寺典明［中22］
【参加費】一人五百円（保険代、広重美術館、ひしや資料館は個人負担）
【持ち物】弁当、水筒、帽子、タオルなど
【申込み】当日8時30分～9時30分（事前申込みの必要なし）

磐田南高と提携の話題

草川さんが取り持つ縁

校歌作曲者・草川宣雄さんの資料を、おいの草川誠さんから頂いたところ、宣雄さんは一九三〇（昭和五）年に、静岡県立見付中学校（現在の静岡県立磐田南高等学校）の校歌も作曲されたことが判明しました。

同校は静岡県下屈指の進学校。くしくも今年は恵那高同様に創立八十周年を迎えます。石井前校長は「姉妹校提携したい」という希望でした。八十周年を機に、是非、実現したいもの。

磐田南高の校舎。昭和5年、見付中2年の牧野正蔵選手は水泳1500メートルで世界記録を樹立。ほかに五輪金メダリストが2人も誕生している。

参加二〇〇人の大コンペ

恵那峡CCで5月20日に

創立八十周年記念事業のトップを切って総務委員会＝丸山朝夫委員長［高8］＝では『記念ゴルフ大会』を企画しました。参加二百人の大コンペです。奮ってご参加ください。

参加申込み期限は四月末日ですが、会報の発行に合わせて追加申込みを受付中です。参加を希望される方は、四人単位で、至急お申込みください。

【実施日】五月二十日（月）午前8時スタート
【会場】恵那峡CC
【競技】ダブルペリア方式
【人員】二百人まで（四人一組単位で申し込むこと）
【会費】メンバー、ビジターとも一万三千円（プレー、昼食、ドリンク、パーティ、賞品代など含む）
【寄付】成績により次の寄付を行なう、ホールインワン30万円、イーグル3万円、ワンオン千円、バーディ千円
【申込み】恵那峡CC支配人・山内喜久男［高12］電話＝〇五七三―二五―五一一一
【申込み期限】追加申込み受け付け中（なるべく早目に申し込むこと）

記念写真や応援歌用に

卒業期ごとに校旗を整備

同級会で、記念写真の撮影時や応援歌が始まった際には校旗（応援旗）が必需品です。そのため「卒業期（回）ごとに校旗が欲しい」という要望がかなり出ています。そこで記念事業委員会では、各卒業期ごとに校旗を1枚（流れ）ずつ製作し、配付することとなりました。

ただし、1枚の製作費約3万円のうち2万円を同窓会で補助し、1万円が各卒業期の負担となります。

製作を希望される卒業期は、七月三十一日（水）までに恵那高等学校同窓会事務局へ申し込んでください。負担金の支払いは、現物引き渡し時となります。

広告第1回集計36・4％
募金、目標額にあと一歩

募金・広告に是非ご協力を

財務委員会＝市川康夫委員長［高19］＝の創立八十周年記念事業の募金などの申込み状況は、四月二十六日現在で次のとおりです。

①記念事業募金＝申込み件数が千七百七十九件、募金額が一千七百九十六万六千五百四十八円で達成率八九・八％、あと一歩という状況です。まだお済みでない方は、どうかご協力を。

②同窓会名簿広告＝目標額八百五十万円に対し、申込みは1ページ広告（五万円）二十七件、2分の1ページ広告（三万円）五十八件、金額に換算して合計三百九万円で、達成率三六・四％と目標の約三分の一の状況。会員企業のご協力をお願いするとともに、一般企業への勧奨をお願いします。

③同窓会員名簿の予約＝申込みは、広告契約者贈呈分を含めて八百十九冊。是非一冊ご購入のほどを。

④記念誌の予約＝二千三百七十二冊と好調です。

●同窓会本会の主な動き

募金・広告の募集検討

財務委員会＝一月二十八日、七名が出席して第2回財務委員会を開いた。募金目標二千万円、名簿広告の目標八百五十万円の進行状況説明と今後の計画を協議。

委員に広告の募集を依頼

財務・名簿合同委員会＝二月二十一日、四十八名が出席し、各委員会の進行状況の説明の後、財務委員会から全委員に名簿広告募集の依頼があった。

記念事業の具体案協議

事業委員会＝三月八日、七名が出席し、第2回事業委員会を開催し、創立八十周年記念事業について協議し、実行委員会は毎月一回開催を決定した。

記念誌は卒業期で分担

名簿・記念誌（広報）委員会＝四月十一日、四十一名が出席して開催し、記念誌は各卒業期が割当分の編集を分担することと、会報第3号の編集内容を検討。

各会の進行状況を発表

実行委員会＝十四年度第1回実行委員会を四月十九日、十六名が出席して開催し、各委員会の進行状況を発表（内容は1～3ページに掲載のとおり）した。

八十年の軌跡 ③

若者の颯爽（さっそう）たる姿を象徴
草川宣雄さんが校歌を作曲

草川さん一家。後列右から、三男・青木友忠、長男・宣雄（34歳）、次男・田沢正義、四男・信の皆さん（1914［大正3］年撮影）

校歌の誕生＝作曲者の巻＝

一九二九年（昭和四）年二月発行の『恵那中学校同窓会報』［第二号］によると「校歌は歌詞を木曽出身の島崎藤村先生に、その作曲を東都斯界の名士・草川宣雄（くさかわのぶお）先生に依頼。それぞれ着手」と記録されています。

つまり、①昭和四年二月の時点では、校歌はまだ完成していないこと、②作曲者は阿部栄之助校長の構想だった弘田竜太郎さんから草川宣雄さんに変わったことなどが分かります。

いずれにしても、校歌完成時期の詳細は不明で「昭和四年度から歌われた」という程度しか分かっていません。これを解明できると推定される『恵那中学校同窓会報』［第三号］を、是非、捜し出したいもの。

ところで、草川宣雄さんは一八八〇（明治一三）年九月九日、長野市旭町に住む信濃銀行勤務の草川一成・きく夫妻の男ばかり四人の子供の長男として誕生。二十歳のとき入信した敬けんなクリスチャンで、終生、富士見町教会などのオルガン演奏を担当しました。

一九〇三（明治三六）年に長野師範学校（現・信州大学）を経て東京音楽学校甲種師範科（現・東京芸術大学音楽学部）へ進学。〇六（明治三九）年に同校を卒業した後、一五（大正四）年から四〇（昭和一五）年まで、東京音楽学校の常任講師としてオルガン・音楽理論・教授法などを教えました。つまり、この時期の中ごろに恵那中学校の校歌を作曲したわけです。

草川家は音楽一家。ただ、二弟の正義さんだけは師範、高等師範学校を出て女学校の植物の先生。でも、時には音楽も教えたとか。三弟・友忠さんも、奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大）のバイオリン、作曲の教授でした。

宣雄さんの影響と感化を最も受けたのが、末弟の信さん。小学校六年生のころ既に「音楽家になりたい」という希望を持ち、長野中学から長兄と同じ東京音楽学校へ進みました。卒業後は鈴木三重吉の児童文学誌『赤い鳥』の童謡部門を担当した作曲家。『夕焼け小焼け』や『汽車ポッポ』などの作品で有名です。

阿部校長が草川宣雄さんに校歌の作曲を依頼したのは「草川さんが長野師範の一年先輩の同窓生だったから…」と推測されていますが、作曲時、草川さんは円熟期の五十歳。素晴らしい校歌が完成したわけです。この項のために資料を提供していただいた草川誠さん（信さん次男、元・国立音楽大学助教授）が校歌のCDを聴いての感想。

―伯父は感興のわくまま作曲したと感じました。マーチ風の曲想全体がリズミカルで明るく、殊に五行目の詞に弾む思いを和らげつつも、大きく清く飛翔するかのごとく、豊かに流れるメロディーで結ばれる校歌は素晴らしく、若者の颯爽（さっそう）たる姿を象徴するかのようです。

城陵随想論壇

恵高、馥郁（ふくいく）たる伝統の香り

恵那高等学校長　斉藤　宣昭

この四月に赴任してきまして、何かにつけ恵那高等学校八十年の、伝統の重さをひしひしと身に感じております。この有形無形の素晴らしき伝統は、本校を卒業された二万三千余名の皆様方お一人ひとりの、並々ならぬ母校愛と努力によって、営々と築き上げられたものに外ありません。本校同窓会の会員の皆様には、敬意と感謝の念を申し上げます。

さて、今年度は喜ばしいことに、本校の『創立八十周年記念式典』を十一月十日（日曜日）に挙行する運びとなりました。会員の皆様には感慨もひとしおのことと思います。

一口に「八十年」と申しましても、この長い年月のうちには、会員の皆様にとって、言葉では言い尽くすことのできない、大変な苦労があったことと推察いたします。校長室の書棚から取り出した古い記念誌をめくると、創立当初から昭和二十三年（一九四八）までの恵中、実科女学校の写真が載っていました。写真には授業、部活動、運動会などの学生生活を楽しむ様子。更には不幸な時代の軍事教練、勤労奉仕の様子なども写っています。

これらの変遷を経ながら本校は、創立以来八十年にわたり東濃地域の中心校として、数多くの有為な人材を各地、各界に送り出してきました。これら本校を卒業された会員の方々が各地、各方面でご活躍され、本校の名を、存在を揺るぎないものにされてこられたことに対し、在校生や教職員は誇りに感じています。

今年は八十周年記念であるということを機にして、会員の皆様が気軽に母校をのぞかれ、在校生をはじめ我々教職員に対しても、いろいろと昔話を聞かせていただくとか、叱咤（しった）激励いただくと有り難いと思っております。また、この会報を通じて会員の皆様に、学校を知っていただけることも有り難く思っております。この会の発展と皆様方のますますのご活躍を祈っています。

校長室・尾関先生の絵

八十周年記念事業副委員長　西戸　登［中24］

例によって同期の足立が迎えに来てくれた。「西戸おんしは恵中（高）を玄関から上がったことはあるかよ」と言った。「いんね、玄関から上がったことはないし、校長室なんか入ったことはもちろんないし、見たこともない。ただ、おそがいだけやったなあ」などと往時の思い出話をしているうちに着いてしまった。

オオ、これが恵中の玄関かい。靴脱ぎのざら板五、六枚。職員用、来客用とずらり並んだ下駄箱の群。昔、湯治遊山に行った会津東山温泉の千人風呂の雰囲気。ガラス戸越しに受付の女性に来意を告げ、校長への取り次ぎをお願いする。廊下の向こうの扉が開いて校長らしい人が顔を出された。目がクリクリで人懐っこい、優しい雰囲気の方だった。

あいさつを済まして応接いすに座る。お茶を頂いて目の前の壁を見上げると、昔の恵中の校舎を画（か）いた絵が掛けてあった。尾関重之介先生の作品である。明るくて、さわやかで透明感のある美しい絵。間違っているかも知れないが、私の推量では、この絵は写生ではない。昔の校舎が焼けた後しばらくして先生が万感の思いを込め、お画きになったものと思う。

先生から承った伊藤律先輩や予科練に行った生徒の話。そして、戦中戦後のイモや豆を作った生徒たちに注がれた熱血指導。生涯を通じて恵中を愛し、真の意味で生徒に優しかった先生の恵中に対する思いがこもった傑作である。

アコーデオンプリーツで隔てた隣の粗末な部屋の片隅に、もう一枚、大傑作があった。校舎の焼け跡が画かれた真っ黒な絵。これはすごい。先生の恵中に対する思いが凝縮され、恐らく涙と共にお画きになったものと思われる。慟哭（どうこく）という言葉があるが、真に慟哭という絵だ。

郷土の先輩、付知が生んだ熊谷守一に「ろうそく」「陽の死んだ日」という二大傑作があるが、それに匹敵する二大傑作が石井新太郎校長室にあった。感動。

『城陵』第4号発行は10月1日

原稿・情報9月10日までに

同窓会報『城陵』が発刊して間もなく一年。早いもので、今回は第3号をお届けします。

会員の皆様の会報に対する愛情がヒシヒシと感じられ、号数を増すごとに、心のこもった情報・資料・原稿などが多くなり、大変感激しております。

次回、第4号の発行は、10月1日の予定で、情報・原稿の締切りは、9月10日となります。これ以後に到着したものは、第5号掲載となることをご了承ください。

ご連絡は必ずしも原稿でなくて結構です。FAXでメモ書きの情報さえお寄せいただけば、当方からお尋ねして原稿をまとめさせていただきます。どしどし情報をお寄せください。

【連絡先】
恵那高同窓会事務局
電話
0573−26−1311
FAX
0573−26−1313

母校のトピックス

大島誠人君がシチズン・オブ・ザ・イヤーを受賞

昨年七月、二十一世紀・世界で初めて変光星「WZ」の増光現象を見付けた当時二年生の大島誠人（ともひと）君が、今年一月二十九日『2001年度・シチズン・オブ・ザ・イヤー』を受賞しました。

この賞は、シチズン時計が、市民社会に感動を与えた無名の市民を一年単位で選出し、表彰するユニークな賞で、今回で十二回目。

『2001年度』の受賞者は、大島君のほか二人。広島・長崎の被爆者の生の声千三人分を八年間かかって録音テープに収録したジャーナリスト・伊藤明彦さん（六五歳）。

一九九六年、信州大学助教授の職を捨て、単身ベラルーシに赴任し、五年余の間、チェルノブイリ原発事故の後遺症に悩む人々の治療に当たった医師・菅谷昭さん（五八歳）。

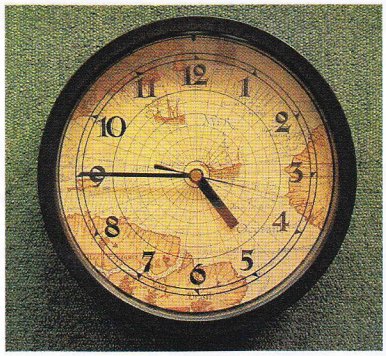
特に、大島君の十六歳受賞は同賞の個人では最年少記録。高校生では愛知県立東山工業高校（名古屋市）車いす部の九七年団体受賞と並ぶ画期的なもの。大島君には賞状、正賞百万円、副賞の功績にちなんだ『コスモサイン星座掛け時計』が贈られ、大島君はこの時計を学校に寄付しました。

大島君の受賞コメント。

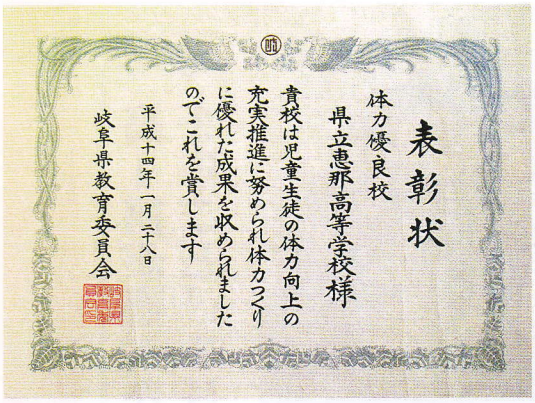
―突然の受賞の知らせでびっくりしました。日本にはいろいろな活動に努力して頑張っている方々が多数いるので、このような栄誉ある賞を自分が本当に受賞してよいのかと思いました。

将来も天文学を研究していきたいので、頑張ろうと思っています。

シチズン・オブ・ザ・イヤーを受賞した大島誠人君



学校に寄贈した副賞の星座掛け時計



表彰状

体力優良校
県立恵那高等学校様

貴校は児童生徒の体力向上の充実推進に努められ体力つくりに優れた成果を収められましたのでこれを賞します

平成十四年一月二十八日
岐阜県教育委員会

「体力優秀校」のとして岐阜県教育委員会から贈られた表彰状

恵那高、体力優良校に

体力テスト 男女とも一位

恵那高等学校が『体力優良校』として、一月二十八日、岐阜県教育委員会から表彰されました―これは昨年度、岐阜県下の全高校生を対象に実施した体力テスト（七種目）の平均得点から判定されたもので、恵那高校は男子、女子ともに第一位。この結果『体力優良校』に選ばれたわけです。

ちなみに、男子は一昨年度に続き、二年連続で第一位、女子は一昨年度が第二位で、昨年度は第一位に躍進しました。

いずれにしても、日ごろの体力向上に対する努力が結実したもので、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と言いますが、母校の生徒の皆さんが、更に知力、体力の充実を図り、有意義な学校生活を送られることを期待しましょう。

西尾みなみさん準特選

国際協力エッセイコンテスト

西尾みなみさん

昨年度、国際協力事業団（JICA）が中学、高校生から募集した『国際協力エッセイコンテスト』の結果が一月末発表され、高校生の応募一万五十六点の中から、恵那高の西尾みなみさん（当時三年生）が岐阜県下では最高の準特選に入賞し、副賞のベトナム旅行も射止めました。

更に桐井沙帆さん（当時二年生）が日本国際協力センター奨励賞に、田中剛司君（当時二年生）が中部国際協力センター所長奨励賞を受け、三人が入賞の栄に輝きました。

このコンテストには、例年、新二年生が春休みの宿題に書いたものを応募する慣習。西尾さんは三年生でも自主的に三回目の応募。恵那高は県下の入賞者七人中三人を占める好成績により、学校賞まで受賞するうれしい結果となりました。

西尾さんとエッセイコンテストとの縁は中学二年生から。豪華な副賞のフィジー旅行にあこがれ『北朝鮮の飢餓』について書き、入賞したのが始まり。

高校二年生では、テレビのゴミ収集場で働く子供たちを見て「何が幸せか、物があることがそんなに大事か」という内容で入賞。

今回は環境大国ドイツでゴミ収集や清掃するトルコ人労働者のこと。彼らが来て犯罪が増えたと快く思われていない。「それは偏見じゃないのか？」とは思ったものの偏見の裏には、戦争があり不景気があり、差別は簡単には解決できず「その背景や現状を踏まえないと、単なる理想論になってしまう」とまとめました。

結果は準特選。更に筑波大学への入学も決まり、二重の喜びに沸いた西尾さんでした。

同窓会・同級会の話題あれこれ

高4回が盛大な同級会 3年ごと、3月に開く

恵那高第4回生同級会の記念撮影

恵那高第4回生同級会＝山田基幹事＝は、創立50周年の一九七二（昭和四七）年に山田基さんの呼びかけにより金龍館でスタート。以後、三年ごとに開き、八九（平成元）年から、毎回三月、恵那峡グランドホテルで行なうようになり、今年は三月二十一日正午から。

山田さんの心のこもったあいさつに始まり、初参加の人にマイクが渡って、ゆったりした話を聞くのも楽しみの一つ。やがて校歌、城陵歌（大会の歌）が始まり、肩を組んでの大合唱。更に、編みがさ、扇子持参の踊り、詩吟などが出て、おひねりが飛びます。男女とも、のど自慢はカラオケで歌い、それに連れてダンスも始まり、同級会は最高潮に達します。

こうして今年の同級会も終わり、また三年後を期待しながら解散しました。

楽しく『自分史』を紹介 中22回西部 元気に語る会

桜を観賞しながら一杯の『元気に語る会』

中学22回の西部通学団は『元気に語る会』と名付けて集まっていますが、今年は南部（明智地区）の有志にも呼びかけ、三月三十日、瑞浪市の明世温泉・観月荘に十八人が参加して開きました。

今年は「自分史」というテーマで語ってもらったところ、皆さん熱が入り過ぎて、司会者が時間制限を余儀なくされる始末。とにかく、青春の思い出はなかなか尽きないようです。

（堀　克之・加知弘至）

士気高し！職域同窓会 岐阜県警職員『椛の木会』

岐阜県警『椛の木会』の記念写真

岐阜県警『椛の木会』＝岐阜県警察には珍しい職域恵那高同窓会があり、創立は一九八八（昭六三）年で、現会長は田口正幸・県警本部教養課長、会員数は四十八人です。

警察職員は職掌柄、県内各地を頻繁に異動することになりますが、どこへ行っても恵那高同窓会員が活躍しており、すぐに意気投合できます。そんな共通の思いを抱いた者が、年数回集い来て酒を酌み交わし「情報交換し、議論し、協調し、有意義な行動をしよう」と励まし合い、閉会時には校歌と応援歌を歌い、団結心と士気を高めています。

今や『椛の木会』メンバーは優秀警察職員の代名詞になりつつあります。

（水野忠義［高9］）

総会案内を新聞折り込みで 恵那城陵会の新作戦

恵那城陵会＝水野智雄会長［高5］＝では、本年度の総会を五月二十六日午後三時から恵那峡国際ホテルで開きます。会費は八千円です。

同会では、出席者を増やすための新作戦として、この案内を新聞折り込みを利用して周知し、参加申込みは各卒業期の幹事に連絡する方法をとることとなりました。恵那地区の皆さん、奮ってご参加ください。

高6回　52人が和やかに
バスで紅葉の北陸路へ

女子20人、男子32人参加して楽しい旅行（山中温泉・花つばきで）

恵那高第六回生同窓会＝鈴木幹三幹事＝平成七年の還暦から、箱根、賢島、恵那と隔年制の同級会。昨年は十一月十二日、北陸山中温泉・花つばきで、五十二人が参加して開きました。

恵那発のバスに約半分が乗車、残りは名古屋駅へ集合して参加。紅葉の北陸路を眺めながら、和やかなうちに山中温泉へ。温泉を堪能した後、盛大な同級会。

翌日は那谷寺、湯の国の森を見学して昼食、一路帰途につきました。次回は恵那の主催で開催する予定です。

同級会・パターゴルフ・バーベキューを楽しむ

恵中会・昭和20年入学者恵那・中津川地区会＝田口豊太幹事＝は、会員二十三人が春秋二回集まり、春は郷里周辺、秋は遠距離旅行を行なっています。

今回は岩村町の岩村山荘に十三人が集まり一泊の定例会。しっかり飲み、語り、楽しみました。

翌日は、阿木川湖パターゴルフ場でパターゴルフ大会。気持ちよく運動した後はバーベキューに舌つづみ。楽しい二日間を過ごしました。

恵中会・昭和20年入学者の記念撮影

男子寮・女子寮合同の同級会の旅

男子・女子寮の合同会
西伊豆・土肥へ優雅な旅

高校4回・男子寮・女子寮合同同窓会＝私たちの時代、男子・愛日寮は現在の『花の木会館』辺り、女子寮は学校東側、現在の恵那東中学校テニスコートの北西隅にありました。

九一（平成三）、九三年の二回、女子寮の同級会を開いたのがきっかけとなり、四回生全体の同級会で話が弾み、男子寮・女子寮合同の同級会を開くこととなりました。

世話役は纐纈信也、田口公也、山田康子らの皆さん。九七年五月、一泊二日で西伊豆へ。男子八人、女子七人、計十五人が名古屋に集合し、大型観光バスで土肥マリーンホテルまで優雅な旅。全員が高校生のころに戻って、声をはりあげて歌い、しゃべった、楽しい二日間でした。（市村眞知子）

記念誌の編集は卒業期で分担
各年代の貴重な写真・資料・原稿で生きた歴史を収録

四月十一日開催した広報委員会（名簿・記念誌・会報作成委員会を簡潔に表わすため変更）＝西戸登委員長［中24］＝で、創立八十周年記念誌『城陵八十年』（仮題）の編集について協議した結果、基本的には次のとおりとなりました。

編集を分けて、各卒業期（回）で2ページ程度ずつ分担し、それを持ち寄ってまとめることにしました。早速、中学第一回生の岡本丑雄さんが「一回生の意地にかけて原稿を書く」と連絡いただきました。

記念誌はB5版、百八十ページ程度、写真を中心にしたグラフィック誌型編集で、各卒業期の特徴と歴史を表わす、個性あふれる記念誌を目指します。

そこで、同窓会員にお願いしたいのは、貴重な写真・資料をお持ちの方は五月中に同級の広報委員（名簿作成委員）に連絡し、それらが記念誌に収録されるようご手配ください。

四月十一日、委員会で広報委員（名簿作成委員）の方には、基本的な編集要領について説明しましたが、出席されない卒業期（回）もあったため、近日中に全委員あてに編集要領説明書、原稿用紙、レイアウト用紙などを送付します。

よろしくご協力のほどお願いします。

『ああ人道の丘』作曲

加藤 規子さん［高25］

5月25日 チャリティーコンサート

加藤規子さん

加藤規子さん［高25］＝武蔵野音楽大学声学科卒、恵那市在住、音楽教室講師＝は、八百津町出身の外交官・故杉原千畝さんをたたえる歌『ああ人道の丘』を作曲。昨年十二月、恵那市の恵那文化センターで開催された『恵那市文化祭合唱祭』で加藤さんの指導する二つのコーラスグループにより初披露。大きな拍手が送られました。

杉原さんは第二次大戦中、ナチスに追われリトアニアに流れたユダヤ人難民に、日本の通過ビザを外務省に無断で発給して助けた人。故郷の八百津町には杉原さんを顕彰する『人道の丘公園』があります。作詞した八百津町の柘植砂男さんの依頼で加藤さんが作曲したものです。

加藤さんは多彩な音楽活動を続けており、五月二十五日午後二時から恵那文化センターで『加藤規子チャリティーコンサート』を開き、収益を老人福祉のために寄付します。コンサートでは、当然『ああ人道の丘』などのオリジナル曲も披露されますが、懐かしい童謡、唱歌から『もののけ姫』まで十八曲を予定しています。協力券は大人千円、小・中・高校生五百円。同窓会員の皆さんも、ご協力の上声援を送ってください。

校歌・城陵歌マグカップ

熊谷 松孝さん［中24］が制作

『校歌』と『城陵歌』のマグカップ

『校歌』『城陵歌』のマグカップがお目見えしました＝熊谷松孝さん［中24］＝陶磁器製造販売＝は、既に発表ずみの『恵那中学校校歌』に加えて『城陵歌』のマグカップを制作しました。いずれも中学の校章と歌詞の一番が入ったもので「同級会、同窓会の記念品にどうぞ」とのこと。

問合せ先は、

土岐市妻木町一〇二七
マル孝熊谷商店
電　話＝〇五七二―五七―七二八二
FAX＝五七―四七六八

花の木図書館

本図書館に多数の図書をご寄贈いただき感謝しております。在校生に貸し出すとともに、順次、本欄で紹介させていただきます。

さようならエンジン 燃料電池こんにちは ―二一世紀自動車革命―
山本　寛［高11］著

本書は燃料電池自動車出現の政治的背景、開発をめぐる企業間競争、そして現在のエンジンが抱える問題点が平易に書かれており、また、この燃料電池自動車が今後の社会に及ぼす影響を考えると、技術者のみならず、ビジネスマン必読の書＝慶応義塾大学・飯田訓正教授推薦の言葉＝

［東洋経済新報社発行、一六〇〇円＋税］

ウトナイ湖 サンクチュアリ物語
大畑　孝二［高30］著

野鳥や自然への深い愛を描く感動の本＝立松和平＝日本で最初の野鳥の聖域（サンクチュアリ）である北海道のウトナイ湖の美しい自然と、そこに生きる鳥たちを守るために活躍した青年レンジャーのロマンあふれるドキュメント。

グルーヴキネマ東京で映画化決定。

［ひくまの出版発行、一四〇〇円＋税］

子ども科学図書館 これがカモ！ カモなんでも図鑑
大畑　孝二［高30］著

［大日本図書発行、一四〇〇円＋税］

小説　記者の遠吠え マスコミ栄えて 記者魂は衰退?!
楓　元夫［中14］著

―あるジャーナリストの歩み―華やかなマスコミの裏に何が…生涯一記者をモットーに体当たりして三十数年。その半生を振り返ったとき、楓さんの胸中に去来する思いは…?

［東京図書出版会発行、一二三八円＋税］

写真集　山っ子　風っ子　日和田っ子　丹羽　宏［中23］著

岐阜県大野郡高根村日和田中学校に三年間勤務し、小・中学校の全児童・生徒の写真を収録したユニークな自費出版の写真集。

［非売品］

「彬（もり）」の陶芸日誌 第一集 ―焼き物に魅せられて―
加藤　裕彬［中19］著

素人の陶芸家がまとめたこれから陶芸を始めようという人のための手引き書。

［日本図書刊行会発行、近代文芸社発売、一五〇〇円］

わかる・使える・活かせる 資金繰りの実務がわかる事典―イザというときの乗り切り方から財務体質強化の手法まで―
渡辺　金愛［中24］著

［日本実業出版社発行、二四〇〇円＋税］

最新会計学
渡辺　金愛［中24］編著

［中央経済社発行、二九〇〇円＋税］

すぐ役立つ 企業の経理・会計事項 取扱全書
渡辺　金愛［中24］著

［日本実業出版社発行、三〇〇〇円］

渡辺さんからは三十冊に及ぶ著書の連絡をいただきました。

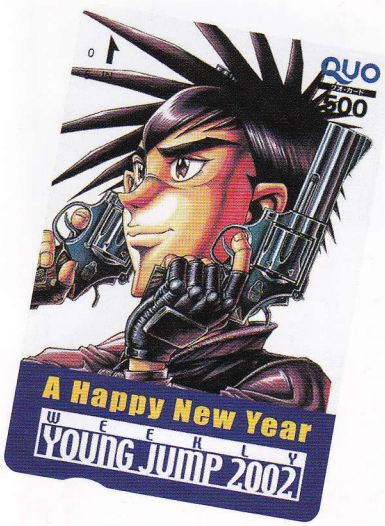
今年の創立記念日講演会
講師は漫画家・荻野真さん

毎年『創立記念日』に行なっている"恵那高版"の『ようこそ先輩』記念講演は、五月二十三日（木）午後一時二十分から、今、脚光を浴びて大活躍中の漫画家・荻野真（おぎのまこと）さんを招いて「私の嫌いなモノ」（仮題）でお話いただくことになりました。

荻野真さんは、一九五九（昭和三四）年、中津川市千旦林生まれ、恵那高30回生、名古屋大学理学部中退後、二年半の漫画アシスタント業を経て、八五（昭和六〇）年、集英社『ヤングジャンプ』誌に『孔雀王』（くじゃくおう）でデビュー。以後は集英社の専属漫画家となり、今日に至っています。

主な作品は『孔雀王』、『夜叉鴉』（やしゃがらす）『小類人』（ちゃいるど）など。現在も『ヤングジャンプ』に『拳銃神』（けんじゅうしん）を連載中です。

今年の『創立記念日講演会』講師・荻野真さん



荻野さんの作品から。
「拳銃神」の主人公・的場イサム

同窓会員も聴講できます
百人程度、予約者に限定

今年度の『創立記念日講演会』から、恵那高同窓会員に限り聴講できるようになりました。

ただし、生徒優先の催しであるため、会員は百人程度に限定し、予約した方に限ります。聴講を希望される方は、必ず同窓会事務局へ予約してください。

［予約先］恵那高等学校　同窓会事務局
電　話＝〇五七三―二六―一三一一
FAX＝〇五七三―二六―一三一三

『確認カード』チェックのお願い
訂正事項がある場合は、2週間以内に必ず返送を

この同窓会報『城陵』と一緒に『確認カード』（返信用葉書）が入っておりますが正確な『同窓会員名簿』を作成するための最終チェックです。プリントアウトされた内容が正確であるか、どうか確認してください。もし、訂正する箇所がある場合には、訂正事項を記載し、2週間以内に返送してください。

①『確認カード』に記載されている「住所・氏名・電話・勤務先」が『創立八十周年記念事業』として発行する『同窓会員名簿』の記載内容になります。

この内容で印刷しますので、訂正事項がある場合は「訂正記入用欄」に訂正事項を記入して、返送してください。

②「勤務先」を記載して欲しくない方は「勤務先欄」に×印を付けて、返送してください。

③『創立八十周年記念事業』の「募金、会員名簿の広告募集、同名簿と記念誌の購入申込み」についてのご協力を、心から感謝いたします。

既に『記念事業』に対して数多くの皆様からご協力をいただいておりますが、今後も引き続き、同窓会報『城陵』を皆様のお手元にお届けするには、更に多くの皆様のご協力やご支援が必要です。

既にご協力いただいた方には大変失礼になりますが、振替用紙を同封しますので、まだ、お済みでない方は、どうかご協力のほどお願いいたします。

この事業の目的は、同窓会報『城陵』の創刊と、その確実な送達です。そのためには正確な名簿を整備しなければなりません。

今回お願いするチェックは、先に皆様にお願いした『確認カード』（2回）による訂正処理の結果、委員による訂正処理の結果、これらを最終チェックするものであります。

投稿
東京恵中会に夢を託す

町野　安兄［高8］

佐々木慎一［中19］恵中会会長から「高校卒業者も参加してください」の呼びかけに、早速、一月十六日の月例会に参加した。場所は銀座のど真ん中、銀座ライオンの二階であった。

参加者は、東大卒、元・満鉄総裁、元・陸軍参謀、大学教授等々、そうそうたるメンバー。いわゆる、その道で功成り名遂げた人々ばかり。

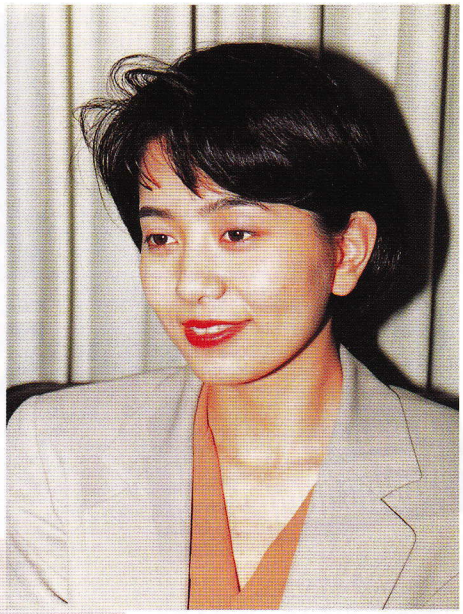
ただし、学制改革で中学は途中から高校に変わったため、高卒者の参加がない。早急に、総会で高卒者も全面的に受け入れるよう決議し、中学と高校の壁を完全に取り払ってしまうこと。中学の郷愁を捨てきれない方もあると思われるが、やがて『中学』が消えてしまうときがあるので、長い間培われた伝統を、思い切って新世代に引き継ぐという改革を願ってやまない。

一方、新世代組にも不満はあろうけれども『恵那高校を守り、育てていく』という基本路線は死守せざるを得ないだろう。「旧制中学と新制高校とは同じもの」という考えに立たないといけないと思う。

恵那高魂 3

三度の試練を乗り越える

ニュースキャスター 草野 満代さん［高37］



常に新しい目標を目指して頑張る草野満代さん

ニュースキャスターとして脚光を浴びる草野満代さん［高37］。彼女は三度にわたる試練を『恵那高スピリット』で乗り越え、今日の栄光をつかんだのです。

一九八九（平成元）年、NHKのディレクターを目指した彼女が、合格後に受けた辞令は金沢放送局のアナウンサーでした。これが最初の試練。

その金沢で待っていたのはスタジオ番組だけではなく、何とスポーツ実況放送『全国高等学校野球選手権大会石川県予選大会』。同年六月、NHK女性アナウンサーとしては初めての野球中継という仕事に挑戦し、見事、やりとげました。

以後『全国高校駅伝』や『都道府県対抗女子駅伝』などで第一中継車からのリポートに挑戦。これも女性アナとしては初めて。翌年八月『夏の甲子園大会』には、松井秀喜選手の星稜高校に随行して『ふるさとリポーター』を務め、女性アナのために"スポーツ"という新分野を切り開いたパイオニア的な存在。

こんな努力が認められ、九一（平成三）年四月、入局わずか満二年で『NHKモーニングワイド』のキャスターという大役に抜てきされ、二度目の試練に直面します。

ここでも彼女は、九二年にリレハンメル・オリンピック開会式の実況などを担当して見事難関を克服し、三年後には『サンデースポーツ』『サタデースポーツ』の担当に変わります。そして、九五（平成七）、九六年と二年連続で『紅白歌合戦』の総合司会、アトランタ・オリンピックの現地キャスターなどを担当し、まさにアナウンサー冥利（みょうり）に尽きる活躍ぶり。

しかし、これに満足しないのが草野さんらしいところ。あえて"NHK退職―独立"という三度目の試練に挑戦したのです。

九七（平成九）年十月からTBS『筑紫哲也ニュース23』のニュースキャスターとして再出発。抱負として「報道番組を担当することの重みをかみしめながら、この国の行方を真正面から見つめ、見極めたい」と述べ、更に大きく前進しつつあります。

我々は"二十三時の星"の躍進を期待し、更に大きな声援を贈りたいもの。

地区便り・クラス通信

宮嶋元校長が叙勲受章

春の叙勲で宮嶋恒光・元校長［中22］が教育功労により勲四等瑞宝章を受章されました。心からお祝い申し上げます。

野村稔さんが記念講演

『土岐市城陵会』＝山村武一会長［中24］＝の総会は、六月九日午後四時からセラトピア土岐で、来賓として同窓会長、校長を招いて開く。記念講演は野村稔さん［中24］の「アメリカ人には日本は分からない。その逆も真なり」。

同級会翌日はゴルフ大会

『恵中22回』＝宮嶋恒光幹事＝は、五月十九日正午から、恵那市・恵那峡グランドホテルで同級会を開く。出席申込み五十五人（四月末現在）。翌二十日には、本会主催の恵那峡カントリークラブで開催の『記念ゴルフ大会』に有志が参加。

今年の北斗祭は八月十日

『北斗祭実行委員会』＝石垣明委員長［中17］＝は八月十日『城陵歌』の作詞者・吉田美一さんの墓前で献歌合唱の会を開催。第二部として山口村・望仙楼で『我が人生・自分史を語る会と懇親会』（会費五千円）を開く。参加希望者は当日午前十一時、JR坂下駅前に集合。申込みは七月二十日までに次の実行委員へ。

安江　宗夫
電話＝〇五七三―七五―二九二四

西戸　登
電話＝〇五七三―六八―七三八八

古山　精
電話＝〇五七三―二六―二五五一

高17回は当日ミニ集会

『高校17回生』は、十一月十日の『創立八十周年記念式典』後に『ミニ集会』を開催します。出席できる方は次の世話役まで電話を。

青山　貫禅
電話＝〇五七三―二五―五四三〇

岡本　祥子
電話＝〇五七三―二六―五五六八

恵高歴史資料室

褒美に渡した銅メダル

山本鉛先生（特別会員、中部大学名誉教授）から、写真の銅メダルの提供がありました。このメダルは中学校時代に褒美として渡されたようで、五百円硬貨より一回り大きいサイズです。『城陵』第2号8ページで、「末松安晴さん［中24］が恵那中時代の思い出として、現在も大切に保存しています…」と紹介したメダル。実物はこれではないかと推定されます。

訃報

度会　文男さん

度会文男さん［中16］は四月十三日、心不全で逝去されました。渡会さんは医業の傍ら、一九七三（昭和四八）年度から七七年度まで恵那高PTA会長、八四（昭和五九）年度から九二年度まで恵那高同窓会長として活躍されました。生前のご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

編集担当　古山　精［中22］